



○ 創刊によせて	1	○ 第二回特別企画展	6
○ 鼎談「芥川賞と直木賞を語る」	2	「作家の自筆原稿でたどる〈文学・青春〉展」	
○ 文学館のつどい	3	○ 2007年収蔵品展	6
対談：村田喜代子さん、迎康子さん		○ アンケート調査	7
朗読：NHKアナウンサーの皆さん		○ 交流ステージ&ワークステーション	8
○ 五木寛之さんを招き開館記念特別講演会	3	○ 北九州文学協会が創立	8
○ 第一回特別企画展「生誕100年記念 火野葦平・岩下俊作・劉寒吉展」	4	○ 高樹のぶ子さん講演会	8
○ 映画「無法松の一生」と講演	6	○ 文学館文庫の出版	8
講師 佐藤忠男さん			

創刊によせて

館長 佐木隆三

初めての「館報」をお届けします。文学館がオープンして、すでに四カ月になり、アンケートで好評をいただき、講演などのイベントはいつでも抽選になるほど、多くの方々から申し込みがありました。この創刊号では、それらの催しに紙面を割いております。

わたしは開館記念の式典で、「お年寄りから子どもさんまで親しんでもらえる文学館にしたい」と、あいさつをしました。「言うは易し、行うは難しで、どうすればそうなるか、智恵を絞らなければなりません。どうか皆さん、よいアイデアを提供してください。」

ひとつ考えているのは、「小さな作家たち」を育てる、文章教室のことで、小学校や中学校で、教師が「きょうは作文だよ」と言うと、「えーっ」という反応だと聞きます。それでも、人か二人くらいは、「よし書くぞ」と張り切るそうです。数十人のなかに、文章を書くのが好きな子どもさんが、一人も二人もいてくれるなら、こんな嬉しいことはありません。

文才というのは、天性のもので、そこから、それを伸ばすことによって、未来の作家が誕生します。わたし自身も講師をつとめて、北九州文学協会や北九州市立大学などに、助力をお願いしたいと考えています。計画が具体化したら、募集要綱を發表しますので、子どもさんやお孫さんを、文学館へ通わせてください。

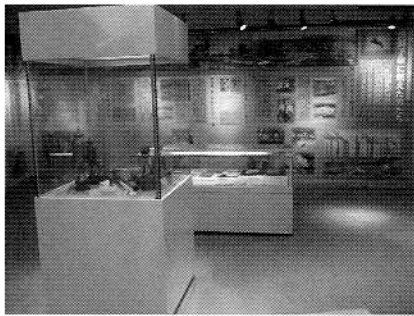


祝 北九州市立文学館開館



開館記念式典

また、文学館には「自分史ギャラリー」があります。北九州市と北九州教育委員会が主催する、自分史文学賞の受賞作を中心に、閲覧することができます。すでに「圭受賞作を讀破する」と、熱心に



自分史ギャラリー

第二回特別企画展

「作家の自筆原稿でたどる〈文学・青春〉展」

「主な展示資料」

川端康成「伊豆の踊子」白筆原稿、太宰治「斜陽」「人間失格」白筆原稿、三島由紀夫書簡、石原慎太郎「太陽の季節」白筆原稿、大江健三郎「飼育」「個人的な体験」白筆原稿、村上龍「限りなく透明に近いブルー」白筆原稿など。

*開催期間 3月24日(土)～5月6日(日) ※5月1日(火)は臨時開館

*観覧料 一般 400円、中学生 200円、小学生 100円



太宰 治

2007年収蔵品展

3月18日(日)まで開催中

杉田久女、橋本多佳子の掛け軸、色紙、短冊など白筆資料を展示。そのほか、森鷗外の書簡、田中小実呂の原稿なども。

*入館料で観覧できます。